

知内町でニラ農家に! ～金融経験を活かした挑戦～



小玉 龍之介 (こだま りゅうのすけ)

平成5年3月8日生まれ、北海道旭川市出身。札幌学院大学経済学部卒。卒業後は地元金融機関にて、地域の課題解決型営業（金融知識を生かしお客様の課題を解決する提案を行う営業）に従事。経済産業省北海道経済産業局への出向経験を経て、2023年7月より知内町の地域おこし協力隊に就任。特産品であるニラ農業への新規就農（事業承継）を目指し活動中。

【協力隊に応募したきっかけ】

私が地域おこし協力隊に応募したきっかけは、妻の実家の農業経営を継ぐための知識や経験を積みたかったからです。妻の実家は知内町でニラ農業を営んでいますが、後継者が不在で廃業を検討していました。その話を聞いた際に心の底から「もったいないな」と感じました。妻と結婚するまでは知内町には縁もゆかりもなかったのですが、結婚してから年に数回知内町に訪問していたところ、知内町の人、景色、産業などがいつの間にか大好きになっていたことに気づき、事業を承継したい、移住したいと考えるようになりました。その後、夫婦会議をし移住を決断した上で妻の実家に相談したのですが、前向きな回答はいただけませんでした。理由は、前職の安定した職業を捨てるのはもっ

たくないこと、無経験から始めるにはリスクが高いこと、田舎で一から人間関係を構築するのは大変だということでした。そのような中、町役場の担当者から知内町の地域おこし協力隊制度を活用した就農支援を案内してもらいました。同支援は、地域おこし協力隊として町からお給料をいただきながら、地域内のさまざまな農家のもとで人間関係を構築しながら農業経験を積むことができるというものです。この制度を活用すれば、反対理由の大半をクリアすることができること、無事妻の実家を説得することもでき移住することができました。

【地域おこし協力隊としての活動】

大きく分けて3つの活動をしています。1つ目がメイン活動である就農に向けた農業研修です。宣伝も兼ねて詳しくご紹介させていただきます。知内町には基幹産業の一つである農業の担い手を育成するため地域おこし協力隊を活用した就農支援制度があります。この制度は、ニラ、ほうれん草、トマトといった作物の新規就農に必要な知識や経験を得ることを目的としており、希望する作物について深い知識を持った指導農業士、農業士のもとで実際に勤務することができます。私はニラの就農を目指しこの制度を活用しております。勤務時間のほぼ全てがこの研修に当てられています。また、知内町では担い手育成講座という座学形式の農業研修も設けられており、私のような農業初心者でも安心して就農を目指すことができます。基本的に知内町の地域おこし協力隊に求められているのは「将来の農業の担い手になること」なのでこの活動だけでも最低限事足りるのですが、町としても地域おこし協力隊のさまざまな挑戦を応援してくれています。



農業活動のイメージ



2つ目が地域の若手農家と連携した活動です。JA新函館南渡島地区青年部と連携し町の将来に向けて若手農家の立場からできることを模索しています。2023年度には、内閣府主催、経済産業省共催のコンテスト「地方創生政策アイデアコンテスト」に挑戦しました。このコンテストは、地域についてRESAS（地域経済分析システム）等を活用しデータ分析した上で地域課題を特定、課題を解決するアイデアを提案するというものです。このコンテストを通じ知内町の農業についての人口減少、担い手不足、作業面の効率化の必要性という課題を地域の若手農家と共有することができました。この課題を解決するアイデアとして若手農家が地域の中高生向けに座学、農業体験を提供する「知内塾」、ニラの出荷調整作業を地域住民全体で行うことを可能とするマッチングシステム「UNITE」を提案しました。結果、全国1,000件以上の応募総数がある中、北海道代表として全国審査会まで出場することができ、北海道経済産業局長賞、協賛企業賞などの賞を受賞することができました。現在は、このアイデアを実現するために動き出しています。



JA新函館南渡島地区青年部の仲間たち

3つ目は、金融機関の前職経験を活かした取り組みです。地域の皆さまへの補助金活用の提案や札幌圏の企業と知内農家のビジネスマッチングなどを行いました。このビジネスマッチングにより、しりうちニラ北の華を使用した「しりうちニラのチーズキッシュパイ」や知内産とうもろこしを使用した「とうきびパイ」な

どの地域野菜を活用した商品を開発することができました。現在は、ふるさと納税やご協力いただいた企業での販売を行っております。地域内店舗での取り扱いができていないので、今後は地域内での販売に向けた活動をしていきたいと思っています。



地域野菜を活用した商品

【将来の展望と今後の活動】

将来的にこんな風になりたいといった理想像みたいな感じなのですが「地域住民から最も頼りにされる農家」を目指しています。そのために、農家としての土台を作ること、より多くの地域住民との関わりを増やしていくこと、幅広い知識を取得することが必要です。この目標を見据え令和6年度には前述した農業活動に加え、行政書士試験に挑戦しようと思っています。一見農家には無関係かと思うかもしれませんが、法律の知識は経営するにあたり絶対に役に立ちます。このように農業だけでなく他分野の知識を豊富にしていきたいです。また、農業と異業種の接点を増やすために観光協会の活動などにも積極的に参加したいと考えています。

「地域住民から最も頼りにされる農家」はハードルの高い目標だと思いますが、こういった取り組みを積み重ね、将来的に実現できるように頑張ります。

【さいごに】

知内町は道南にある人口4,000人程度の小さな町ですが、農業、漁業、林業などの一次産業が発展しており働き口は豊富にあります。また、自然が豊かで食や温泉などの観光資源も充実しており、さまざまな挑戦が可能な町だと思います。少しでも移住や地域おこし協力隊に興味のある方は私や知内町役場に是非ご相談ください。共に知内町や道南、北海道を元気にしたいと思ってくれる方が増えることを切に願っております。